

1 学校として目指す授業

自他のよさに気付き、互いの違いを力に変えながら、教育活動全体において人権教育を推進し、全ての児童に「できる。分かる。」喜びを味わわせられる授業。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、国、都ともに平均を上回り、都平均との差+0.8ポイントと昨年度から大きく向上している。課題としていた「C：読むこと」に関する間違いは減ったものの、「B：書くこと」に関する間違いが多い傾向が見られた。今後は書く力の育成を図っていく必要がある。 ・算数では、都の平均には0.2ポイント届かなかったが、国の平均と比較すると0.9ポイントのプラスであった。計算や測定は得意だが、「C：変化と関係」や「D：データの活用」に関する領域において間違いが多い傾向があり、数量の関係性や資料の活用について既習内容の定着を図る必要がある。	・「学校に行くのが楽しい」と捉えている児童は都平均との差が+12.3ポイントとなり、学級や学校の取組が児童の居場所を作ることにつながっている。また、「人が困っているときに進んで助けている」児童は都平均との差が+15.6ポイント、「人の役に立つ人間になりたいと考える児童」は都平均との差が+13.6ポイントとなり、たてわり班活動や学級活動、行事等を通して、思いやりの気持ちや自己有用感を育むことも成果が見られる。 ・「5年生までに受けた授業で、タブレット等のICT機器を毎日使用していた児童」の割合は、都平均との差が-21.3ポイントと大きく差が開いた。ICT機器のメリット・デメリットを踏まえた上で日常的に使用していく機会を増やしていく必要がある。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしているか。」という点で「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童が57％となり、昨年度と比較して多くの児童が自分の考えを他者に伝えることに対して前向きに捉えることができるようになった。また「他の人と相談して、考えを深めるようにしている。」という点で「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童も67％と大きく向上し、物事を考えることに対して積極的に取り組めている傾向があることが読み取れる。
・授業においても、「自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。」という点で「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童が67％と向上し、考えを形成し、他者に伝える活動を取り入れることも児童間で認知されていることが分かった。このことから、今後も「学校図書館を活用した学習活動」や「教育活動における児童の人権感覚の育成」を行うことで、授業改善を継続していく。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・本校の児童は、体力テストの結果が全体的に低く、基礎的な体力や運動能力の向上が課題となっている。そこで、体力テストを通して児童が自己の体力や運動能力を正しく理解し、主体的に運動に取り組む姿勢を育むことをねらいとして、体育委員会を中心に「体力向上プロジェクト」に取り組んでいる。短なわ・長なわを活用し、日常的に体力の向上を意識した活動を継続的に行うことで、体力テストの結果向上を目指している。体育の授業では、ICT機器を活用して自分の動きを動画で撮影・確認し、見本となる動画と比較しながら正しいフォームや動きを身に付けられるようにしている。これにより、自分の課題に気づき、意識的に改善する力を養っている。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・学力調査では、国語科の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、算数科の「二次元の表から、条件に合う数を読み取ること」につまずきが見られた。教科は異なるが、それぞれの設問は、文章や表から情報を読み取り、それを整理して表現することが求められるものであった。このことから、本校の児童は、情報を整理したり活用したりする能力に課題があると考える。本課題は、質問紙調査で明らかになったタブレット端末の使用に関する問題とも関連している。教科書等の教材に加え、タブレット端末を活用するなど、情報活用能力の育成を図ることにより課題解決に取り組む。

4 学校全体の授業改善の視点

・情報活用能力を育成する学習を各教科の年間計画に位置付け、教科横断的に当該能力の育成を図るとともに、タブレット端末を用いて様々な資料から情報を読み取る力や、収集した情報を目的に応じて整理し表現する力を向上させるための指導に取り組む。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → <u>教育指導課へ提出する。</u>
⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・各領域における学習方略を示すとともに、身に付けた力を簡単な言葉で表す指導に取り組む。 ・「読むこと」においては、教材を通して学んだことを意識してシリーズ本等を読む学習過程を設定し、習得した読み方が身に付くよう指導する。				・物の数を求める問題では実物を基に考えたり、実際の時計を使って時刻を求めたりしながら、自分で具体物を操作できる課題解決の場を設定する。 ・計算問題では、児童の実態に応じて問題数を変えていく。			・植物の世話や虫の飼育などを体験することにより、動植物に愛着をもって接する態度を養う。 ・植物や動物の観察後、見たものをカードに記録し、成長や生長に気付かせる。		・音楽に合わせた動きや遊びを設定し、リズム、旋律、速さなどの特徴を感じ取らせる。 ・範唱を聴きいたり、楽しく歌ったりする活動を設定し、音楽に親しませる。		・自分が表現したいものを見付け、のびやかに表現できるように個々に応じた声掛けを行う。 ・様々な道具や材料に慣れ親しませ、はさみ、のりなど基本的な道具の正しい扱い方を繰り返し指導する。				・児童が楽しみながら学習ができるよう、場の設定の工夫をする。 ・個人の伸びを感じられる声掛けを行い、成長と達成感を味わわせる。 ・年間を通して用具操作の運動に慣れさせていく指導をする。				・内容項目や教材文をきっかけとして、人物の行動や自己の体験を具体的に振り返り、役割演技や意見交換を通して、道徳的価値を多面的に理解させる。 ・自己の変化や実践意欲を振り返り、考えを書かせる。 ・視覚的な教材を工夫し、理解を深めさせる。		
中学年	・各領域において、自分の考えを短い文で表現するとともに、友達との交流を通して考えを広げたり深めたりする学習を充実させる。 ・「読むこと」においては、教材で身に付けた読み方を関連図書に活用し、互いの感じ方や考え方の違いを認め合いながら読む力を育成する。		・導入では、社会的事象を自分の事として捉えられるように、身近に感じられる資料を活用する。 ・教科書や資料集、ICT教材などから調べたことをまとめるための視点を指導する。 ・自分の言葉でまとめたり振り返ったりする機会を設定する。		・問題文や式の意味が理解できるように、視覚的に理解できる教材・教具を使って、場面を整理しながら指導する。 ・児童が学習した内容を日常生活と関連付けて捉え、役に立つことを実感させる。		・実験や観察をする前に、児童の生活経験や既習事項から予想をたてられるよう指導する。 ・児童の予想や思考の過程をワークシートや掲示物等で可視化し、共有する場を設定する。 ・学習した用語を授業の中で振り返る機会を設定する。		・楽曲について音楽を形作る要素を共有しながら、思いをもって表現できるようにする。 ・音楽に親しめるよう、児童の実態に合う楽曲を題材として、興味・関心を広げていく。		・木工具や彫刻刀など新しい道具や材料の扱い方を知らせるとともに、絵の具やパス、カッターナイフ等を使う機会を増やし、適切な扱い方について繰り返し指導する。				・児童が自らの課題に取り組めるように場の設定を工夫する。 ・児童が成功体験を得やすいように、ルールを緩和したり、場や道具等を簡易化して指導をする。 ・グループで動きを見合い、アドバイスをする機会を設定する。		・小さな自己表現でも大いにほめ、自信をもって会話できるように指導する。 ・例文を分かりやすく提示し、繰り返し会話できるような学習活動を実施する。		・内容項目や教材文をきっかけとして、人物の行動や自己の体験を具体的に振り返らせ、役割演技や意見交換を通して、道徳的価値を多面的に理解させる。 ・少数数での意見交換で、活発な話し合いを促す。 ・自己の変化や実践意欲を振り返らせ、考えを書かせる。			
高学年	・「書くこと」「話すこと・聞くこと」において、情報収集や考えの形成等にタブレット端末を積極的に活用する。 ・情報収集や活用の仕方を具体的に指導する。特に、収集した情報を整理・活用する際に、目的に沿っているかを確かめさせ、情報活用能力の育成を図る。		・地球儀やICT教材を活用し、日本や世界の国土の地理的特徴に関して具体物を通して指導していく。 ・資料を効果的に提示し、読み取りの視点を具体的に指導する。 ・資料の読み取った内容を共有する場面を設定し、多面的・多角的な見方に気付かせる。		・ICTを活用し、習熟度に合わせて学習を行い、既習事項の定着を図る。 ・既習事項の復習を行うことで、学習内容の理解を深める。 ・具体物の操作やデジタル教材を活用し、視覚的に理解しやすくする。		・自分たちで問題、解決方法、実験計画を作成できるように指導する。実験後は、実験の際に考えた予想や仮説、結果をもとに考察が導き出せるような流れを習得させる。		・曲を聴いて感じたことを音楽の要素を用いて共有し、思いや意図をもって演奏できるように指導する。 ・表現に必要な技能を高めるために、既習内容を器楽や合唱での表現に結び付け、基礎基本の定着を図る。		・様々な道具や技法を紹介し、自分なりの表現に必要な方法を選択判断できるように指導する。また、自分の見方や感じ方を大切にしながら、課題意識をもって活動できるように声掛けをする。		・基礎、基本の定着を図り、調理や裁縫の技能を身に付けさせる。 ・学習後の振り返り活動を設定し、身に付けた技能を自覚させ、家庭生活の中で実践できるよう指導する。		・児童が自らの課題に取り組めるように場の設定を工夫する。 ・ICT機器を活用し、技能の向上や振り返りの効率化を図る。 ・よりよい動きにつながる方策を個人やグループで考える機会を設定する。		・英語はある程度読めるが、自分で考えて話すことが難しいという児童が多いため、話す活動を多くする。また、文法通りに教えるだけでなく、ALT等を通してネイティブが使う自然な英語も教えていく。		・内容項目や教材文をきっかけとして、人物の行動や自己の体験を振り返り、意見交換や議論を通して、道徳的価値を多面的に理解させる。 ・自己の変化や実践意欲を振り返り、考えを書かせる。 ・道徳の時間で高めた人権感覚を日常生活や学級経営へ意識的に還元していく。			